



『まちのモト』持参のお店にお越し頂いたお客様には、お買い上げ時に「市電♥クッキー」を1枚差し上げます。

市電への愛や、思い出を語って頂くこのコーナー。第3回は『手作りケーキシャモニー』の堀江恭弘さんです。

市電

♥
vol.3



市電の走る音が子守唄

昭和30年代の前半に走っていた市電「560型」と「570型」は、運転席の隣にも座席がありました。前がガラスですから、運転手さんと同じ感覚で見ることができて楽しいんです。その席に座るために、早くから電停に行って、列の一番前で待っていました。私はここで生まれたので、市電の走る音が子守唄のようなもの。父の代までこの店は『八千代堂』という和菓子屋で、昭和40年に店の前の南9条通

が拡張するまでは、ずっと住んでいました。朝の6時少し前くらいに、一番電車が来るでしょう？そうすると父が「一番電車が行ったぞ。もうそろそろ仕事をしないと」って。一番電車は、時間のバロメーターみたいなもので、話題にのぼることが多かったですね。あとお花見電車も思い出深い。その時期は、乗り場付近にずらっと市電が並ぶんです。それを見るのが楽しみでした。



「ビョンホン・シート」のあるM101号車

1998年に韓国の人気俳優イ・ビョンホンが市電の運転手役で出演したミュージックビデオに、M101号車が使用されました。彼が座った席は「ビョンホン・シート」と呼ばれていて、「どうやったら乗ることができますか?」とよく質問されるのですが、一両しかないのではなかなか出くわすことができないんですよ。M101号車は、自分が一番好きな型です。古い車体で、よたよたになっても動いている所を見ると、「頑張れ」って思います。自分もだんだ

ん歳をとっていくから、同じように頑張らないと。

昔は、形のバリエーションも豊富でしたね。木造のものもありましたから。路線も大体全線乗っていますけど、やっぱり西線には愛着を感じますね。中でも、南16条の電停前が一番好きでした。昭和30年代の頃って、南16条の方まで行くと、住宅がまばらになって畑ばかり。藻岩山もすぐ近くですから、夏になると蝉時雨が聞こえるんですよ。今と違って、ずいぶんのどかでしたね。

人気商品「西線ロール」と「西線バターカステラ」ができるまで

西線ロールを作ろうと思ったのは、2002年くらいに、市電を廃止するか存続するかの話が出たことがきっかけです。私は市電が好きですし、応援したいので「市電存続応援菓」を作ろうと。歌ではなく菓子の菓(笑)。ちょうどその頃、ロールケーキもブームになりかけていて。市電沿線にまつわる話も調べて、パンフレットも作りました。パッケージも自分で作っているんですよ。全部で5種類あって、季節によって変えています。

西線バターカステラは、観光でいらっしゃった方のお土産用に、日持ちのするものを作ろうと思って。なぜバターカステラかというと、昔この辺に雪印乳業を起こした黒澤西藏さんの牧場がありまして、雪印はそこからスタートしたんです。なので、バター味のものを作ろうと。この二つの商品を出してから、市電好きの方が多く足を運んでくれるようになったので、自分も楽しいですね。つい、仕事を忘れて市電の話で盛り上がってしまいます(笑)。

お問い合わせ先 ★ 手作りケーキ シャモニー 札幌市中央区南9条西15丁目1-1 西線9条旭山公園通り電停前 TEL/FAX 011-561-5408
<http://chamonix-cakes.com>

まちの資源再発見プロジェクト vol.3

上田市長の定例記者会見で『まちのモト』お披露目

10月7日(木)に行われた定例市長記者会見で、『まちのモト 山鼻・曙地区町内会連合会エリア特集』が紹介されました。「まちのモトをきっかけに、自分たちの住むまちを再発見し、まち活動への参加につなげてほしい」と上田市長。毎号、中央区内の各連合町内会エリアが特集されるので、他の地区の取り組みにも、ぜひご注目を。

また、『まちのモト』の発刊と同時に、市電車内にポスターも掲載されます。車内でも配布される『まちのモト』を手に、本誌とはまた違うバージョンの写真をお楽しみください!



写真提供：中央区